

令和2年3月18日

意見発表

藤井委員

公明党神奈川県議会議員団を代表し、当委員会に付託されている諸議案に対し、賛成の立場から意見発表を行います。

まず、国際文化観光局関連の事項についてです。

初めに、湘南地域のシェアサイクルによる周遊促進についてです。県では、かねてより、湘南地域の市町や地域の観光協会などと連携して、シェアサイクルを活用した周遊促進の取組を進めています。初めて降り立った駅の前に自転車が置いてあり、それに乗って地域を周遊し、自然や歴史、文化などの観光スポットで様々な体験をすることが、湘南地域に適した観光施策だと思えます。

いよいよ大磯地域にサイクルポートが整備され、うれしい限りです。大磯地域は、旧吉田茂邸のほか、大磯迎賓館と言われる旧木下家別邸、海水浴場発祥の地である大磯海岸などが点在し、湘南の別荘文化をしのぼせる地域です。来年度には、明治期の立憲政治の確立等に貢献した伊藤博文をはじめ、先人たちの邸宅や庭園を一体的に保存、活用する、明治大磯記念邸園の一部区域が公開される予定です。こうした新たな観光スポットも含め、シェアサイクルで周遊することができれば、この地域の観光の魅力が高まると期待しております。

今後は、シェアサイクルを安全に走らせることができる自転車道路の整備についても、所管局と連携し、地域を周遊する方々が、安心して観光を楽しめる湘南地域の実現にまい進していただくことを要望します。

次に、三県省道友好交流ネットワークにおけるSDGsの取組についてです。県では、かねてより、友好提携関係にある中国遼寧省、韓国京畿道と三県省道友好交流ネットワークを形成しており、その中で各代表が集い、共通課題の解決や、交流の促進に向けた議論を行う友好県省道交流会議を実施しています。昨年9月9日に開催された第12回会議は、持続可能な開発目標であるSDGsの推進をメインテーマとして、湘南国際村センターで実施されました。SDGsの推進は、国が、理念や方向性を示しても、地方自治体が具体的な部分をカバーしないと、絵空事に終わってしまう危惧があります。その中で、この交流会議において、各地域の代表がSDGsの推進に向けた発表を行い、意見発表したことは、非常に大きな意味を持つと思っています。課題解決に向けた共通の解を導き出すことは、困難もあると思いますが、SDGsの目指す、2030年のゴールに向けて、できれば三つの地域が、頻繁に連絡を取り合っていたら、他県の模範となるような取組として、ぜひとも継続していただくよう、要望します。

次に、スポーツ局関連の事項についてです。

まず、東京2020大会の記録についてです。大会記録誌について、神奈川県の特色を生かした全体像も見えてきました。県内全ての小中学校、高等学校、特別支援学校や県内図書館への配布も計画されており、完成を期待しています。

また、記録映像も制作するというのですが、定点カメラを設置して、セーリング競技の醍醐味を伝えるなど、記録に工夫を凝らしていただきたいと思います。

さらに、ポスターやマスコットパネルなどが、神奈川県立歴史博物館や神奈川県立スポーツセンターに移管されるということですが、様々な形で大会の記録を残していただきたいと思います。大会の記録は、当時の雰囲気や様々なものをよみがえらせる大切なものです。後世にしっかりと残していただくよう要望します。

今は、機運醸成のイベントとして、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会を一番盛り上げる時期です。しかし、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、不安定な要素も出てきています。これは、今まで一生懸命行ってきたものを、しっかり成果に結びつけるために、乗り越えなければならない試練であると思います。これからが正念場です。皆で協力し、共に乗り越えてまいりましょう。

次に、神奈川県障がい者スポーツ協会(仮称)についてです。いよいよ神奈川県障がい者スポーツ協会(仮称)が設立されますが、我が会派は、かねてから障害者スポーツの振興に力を入れて取り組んできており、大いに期待しています。協会設立はゴールではなく、新たなスタートです。今後、様々な障害者団体の皆様が、協力して進めていくに当たり、県は後方支援ではなく、二人三脚で力を合わせ、協会が着実に育つように、進めていただきたいと要望します。

次に、両局共通の事項について要望します。

まず、令和 2 年度予算について、国際文化観光局予算についてです。令和 2 年度予算は、県民生活に深く関わる喫緊の課題に、的確かつスピード感を持って対応するとともに、東京 2020 大会に向けて、神奈川県のような魅力を磨き上げて世界に発信し、国内外から、観光客を誘致するとともに、その後の展開も見据えて、人を引きつける魅力ある神奈川づくりを加速させ、誰もが芸術文化活動、鑑賞、活動する機会づくりや、地域からの国際交流、協力の推進及び多文化共生社会の地域社会づくりを進める内容となっています。

新型コロナウイルス感染症による観光産業への影響に対応することはもとより、これから増加が見込まれる外国籍県民が、安心して生活できる様々な支援など、所期の目的達成への道のりは平たんではないと思うので、しっかりと取り組んでいただきたいと思います。

次に、スポーツ局の予算についてです。

まず、東京 2020 大会は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大が懸念されていますが、公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会等の関係機関と緊密に連携し、この試練を乗り越えていただきたいと思います。引き続き、大会成功に向けて、セーリング競技の開催準備、ライブサイト、東京 2020 オリンピック聖火リレーをはじめ、諸事業を着実に進めることを要望します。

また、来年開催されるねんりんピックは、これから具体的な準備に入ると思っています。ラグビーワールドカップ 2019、東京 2020 大会から続く、スポーツへの関心をさらに高めていくことができるように、着実に準備を進めていただきたい

いと思います。

なお、4月にリニューアルオープンする、神奈川県立スポーツセンターについては、障害者スポーツの拠点としての機能を充実させていくことを大いに期待します。

以上、意見、要望を申し上げ、当委員会に付託されている諸議案に賛成し、意見発表とします。